

神奈川の道德

日本道德教育学会
神奈川 支部
令和4年2月13日発行
第19号

日本道德教育学会神奈川支部

オンライン道德教育研究大会 2021

令和3年12月25日(土)、神奈川支部主催の道德フォーラムが敢行されました。昨年度に引き続きオンライン形式での開催となりましたが、オンラインであるがゆえに全国各地様々な地域から参加者が集まり、実り多い時間となりました。

研究実践提案 1 「子どもの思いを大切にしたい授業づくり」

登壇者：柿沼寿和 先生（大和市立大和東小学校 教諭）

神奈川支部の研究テーマでもある「勇気づけ」について、アドラー心理学をもとに「他者からの勇気づけ」と「自己勇気づけ」の2種に分類した。道德教育や道德科授業においては、児童の主体的な学びが自己を勇気づけることに繋がるのではないかと考えた。これらを踏まえ、東小学校では、「総合単元的な道德学習」として、道德学習の計画や事前事後学習に児童が関わる形式をとることで、指導内容についての課題・問題意識をより主体的に追求することを支援している。

総合単元的な道德学習の実践例「東小をよりよくしよう」(6年生)

- ・道德科を中心に、総合や特別活動、国語科との教科横断的な学習計画を立てる。
- ・特別活動との関わりにて「1年生のために(学校のために)できること」について考える。

実際の児童の取り組み：教室紹介、先生紹介、行事紹介など

道德科のユニットの立て方

- ① 最高学年としてふさわしい学校生活を送れていますか。
- ② もっと最高学年らしくなるために、自分たちに必要なことは何か。
- ③ 学習する順番はどうしたらいいかな？
- ④ もっと最高学年らしくなるための取り組みに作戦名をつけよう。→「友あ(～)るプロジェクト」

各授業実践について

「ズレ」を生ませ、学習課題を自分事として考えさせる。

教材例 『礼儀正しいふるまい』(礼儀) 発問:「礼儀レベル①～⑤のうち、今までの自分はいくつくらいか。」

研究実践提案 2 「点と点をつなぐ Connecting the Dots」

登壇者：藤永啓吾 先生（山口大学教育学部附属光中学校 教諭）

各道德科授業を、単発の取り組みとするのではなく、その点と点をつないでいくことを意識した。また、その実践の積み重ねの結果として生徒が「魅力的な人」へと成長していく過程に着目し、生徒自身がそれについて考えるような実践を行った。すなわち、道德的な生き方を「人間的な魅力を増やしていく生き方」として意義づけ、道德科の時間を『「豊かな心」へと耕す時間』『「人間的な魅力を探す時間」として展開した。



▲本研究大会のフライヤー

授業の良し悪しの大勢は事前準備で決まる

道徳科の時間だけでなく、他教科等の時間を巻き込み、伏線を張っておくことが重要である。具体的には、学級通信を通して問いを投げかけることなどが挙げられる。(なお、宿題などのような必修課題としては設定しない。)

教職員、生徒、保護者による自己評価

それぞれの立場から回答できるアンケートを作成し、以降の学びに生かせるようにした。

質問例 「多くの課題に対し、生徒と共に考えようとしたか」(教員)

「道徳科の評価(通知表の記述)は、あなたの成長の実感や励ましにつながったか」(生徒)

「お子さんと、人としての生き方や在り方について、話題にされることはあるか」(保護者) など

講演「子どもたちが、よりよく生きる一步を踏み出すきっかけとなる道徳授業のあり方」

登壇者：加藤宣行 先生 (筑波大学附属小学校 教諭 / 筑波大学 講師)

道徳的独り立ち

児童・生徒が自分の考えのもとで判断し、行動がとれるようになっていくこと

⇒ できない自分に向き合い、見えないものを見ていくこと。

「考え、議論する道徳」へ

分かりきったことを言わせたり、書かせたり、表面的な行動変容をなぞったりするのではなく、教材における中心的な出来事を起こしたものが何なのかについて考えさせる。「読み物道徳からの脱却」を図るがゆえに、「議論すればよい」思考状態に陥ってしまっていないか。

⇒ 指導書通りの、誰かに言われた発問ではなく、子どもにとって本当に必要な「真の問い」を作る。

心を動かすための 10 のポイント

- ① 内容項目をどう考えるか
- ② 教材をどう読むか
- ③ 深く考えるきっかけとなる「真の問い」をどうつくるか
- ④ 真剣に議論する「問い返し」をどれだけ考えられるか
- ⑤ 板書をどのようにつくるか
- ⑥ 子どもたちの学び合いの場をいかに演出するか
- ⑦ いかにして実生活につなぐか
- ⑧ 何を学んだのかをいかに子どもたちに自己評価させるか
- ⑨ どのようにして授業に一本筋を通すか
- ⑩ いかにして目の前の子どもたちとしかできない授業をつくりあげるか

具体例(新聞寄稿)から

電車で席を譲った結果キレられてしまった S 君…

「席を譲った人は親切ではない?」「S 君が見つけた「席を譲る方法」のことをどう思う?」「席を譲れなかった S 君は親切ではない?」

「モヤモヤしていた S 君と、新しい方法に気付く席を譲ろうとした S 君、どちらの親切レベルが高いでしょうか?」

⇒ 道徳科の目的は方法論を身に付けることではない。

発問のポイント(テーマに向かった問い)

- ① 学習者の意識の比較
- ② 登場人物の比較
- ③ 主人公の意識の変容の比較
- ④ 場面の比較
- ⑤ 仮説を立てた比較(教材に描かれていない世界) ← 国語科との大きな違い
- ⑥ 行為を生む動機・本質的な「大本の心」の比較

ねらいの具体化・複数化

「人に親切にした方がよい」という命題は、詐欺師もわかっているが、実際は(利益を得るために)違う行動をとってしまう。したがって、知的なレベルで正解を言わせても、そこに道徳科の最終的な落としどころはない。知的理解のみに留まらず、分かれば分かるほど動く児童・生徒の情を大切に。そしてその情によって実践への意欲が湧く。

活動が制限される中ではありますが、今後の道徳教育、道徳の授業について語れる貴重な機会となりました。また、次回も先生方と一緒に勉強できることを楽しみにしています。

(詳しい内容につきましては神奈川支部ホームページをご覧ください。) <http://www.doutokukanagawa.com/>